

作型 連作障害が発生しやすいので、なす・トマト・ピーマン等ナス科植物の跡地には3～4年作付けしない。接ぎ木苗が望ましい。(土壌伝染性の病気を回避できる。)更新剪定により10月下旬頃まで収穫できる。水なす・米なすは晩霜の恐れがなくなってから、植え付ける。普通なすより多肥にする。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春 植 え			○	△	■	■	■	■	■	■	■	■	千両二号、黒陽、筑陽
	○：種まき △：植え付け ■：収穫												

畑の準備・定植

土づくり a 当たり	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	15kg
植え付け1ヵ月前に土とよく混合	
元肥 a 当たり	
醗酵鶏糞	50kg
野菜専用肥料	10kg
畝立時施用	

- 一条植え：畝幅1.5m
- 株間50～60cm
- 本葉5～6枚の苗を植えた所がやや高めになるよう植え付ける。
- 深植えは禁物。



整枝・摘果

- 主枝と第1果房付近の側枝3本を伸ばし、4本仕立てとする。
- 側枝は第1果房の上に葉1枚残して、摘心する。
- 収穫後は、きり戻し剪定をする。

更新剪定
7月下旬に主枝と側枝の茎部から2～3芽残して切り取り、追肥を行う。(野菜専用肥料5～7kg) 収穫がとだえないように、半分づつ切ると良い。約30日後、新枝から収穫できる。



追肥・敷きわら

- 収穫が始まった頃から20日ごとに追肥する。(追肥の量：野菜専用肥料5kg/a)
- 敷きわらは梅雨明け頃から厚く敷く。

防除

病害虫名	耕種防除	薬剤防除
疫病・褐紋病	連作を避ける。通風を良くする。窒素の多施肥を避ける。	
褐色腐敗病	窒素の多施肥を避ける。通風を良くする。マルチ栽培。	ランマンフロアブル(2000倍) 前日4回
うどんこ病	過湿を避け、換気を良くする。	アミスター20 フロアブル(2000倍) 前日4回
ハダニ類	周辺雑草を防除する。	ニッソラン水和剤(3000倍) 前日2回
アブラムシ類	光反射テープや光反射マルチを利用する。	モスピラン粒剤(定植時、植穴土壌混和) 0.5g/株1回

収穫 実が大きくなったものから順次収穫する。(若どりを行い草勢低下を防ぐと、収穫期間が長くなる。)

初期防除 共同防除の有無を問わず必ず散布を!

箱施用剤	農薬名	用量	使用方法
	ブイゲットアドマイヤー粒剤	1kg	<ul style="list-style-type: none"> • 1箱当たり50g(10a当たり約20枚) • 田植え2日前～当日までに箱苗全面に均一に散布するその後、葉に付いている農薬を払い落とし、軽く散水する • 箱剤の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して移植する
			使用目的
			<ul style="list-style-type: none"> • いもち病、うんか類、イネドロオウムシ、イネミスゾウムシ、ツマグロヨコバイの予防 • 効果は60日前後

除草剤	薬剤名	10a当り	使用時期	注意事項
1回処理	パットフルエースLジャンボ	25g×10ヶ	田植え後1～7日まで	• 田は均一に処理後3～4日間は5～6cmの深水管理
	トップガンGT1kg粒剤5l	1kg	田植え直後～9日まで	• 田は均一に処理後3～4日間は5～6cmの深水管理
2回処理	1回目 サキドリEW500cc	1本	田植え時～田植後4日まで	• 代かき後、水深5cm位にして、ボトルを手振り散布
	2回目 マメットSM1kg粒剤	1kg	田植え後15～20日まで	• 水深5cmで散布し、3～5日間は深水管理

基肥・中間追肥・穂肥

●コシヒカリ・標準型

肥料名	10a当り
みねほ	25kg
苦土重焼燐	20kg
※キヌヒカリはみねほ30kg施用する	

肥料名	10a当り
PKカスタム	出穂45日前 20kg

肥料名	10a当り
みのり有機	出穂18日前 20kg 出穂10日前 10kg
※キヌヒカリは20日前	

- 袋の裏にかかれた基準を守ってください。
- 使用方法に不明な点がありましたら、JAハリマ営農相談課、各営業部経済課までお問い合わせください。

●コシヒカリ・低コスト型

肥料名	10a当り
みねほ	25kg

肥料名	10a当り
マルチサポート1号	出穂45日前 30kg

●コシヒカリ・省力型

肥料名	10a当り
有機入り エムコート282	40kg
※キヌヒカリは有機入りエムコート282を50kg施用する	